資料 7

トレーシングレポート分類

患者へのテレフォンフォローアップ毎に保険薬局薬剤師により作成されるトレーシングレポートを介入内容や患者治療への影響度により 11 種類に分類した（表１）

表 1. トレーシングレポートの分類基準

分類名	定義
①緊急入院	テレフォンフォローアップの内容を病院へすぐ（電話等で）連絡し、緊急入院へ至った事例（③と重複せず、①を優先評価）
②予定外受診	テレフォンフォローアップの内容を病院へすぐ（電話等で）連絡し、予定外受診となった事例（③と重複せず、②を優先評価）
③抗がん剤の休薬	テレフォンフォローアップの内容を病院へすぐ（電話等で）連絡し、カペシタビンや S-1 がその時点で休薬となった事例
④処方提案 （処方あり）	テレフォンフォローアップ後のトレーシングレポートにより、処方提案や他科への受診提案を行い、処方追加・変更や他科受診を実施した事例　（⑤と重複せず、④を優先評価）
⑤処方提案 （処方なし）	テレフォンフォローアップ後のトレーシングレポートにより、処方提案や他科への受診提案を行った事例 ※医薬品又は薬効分類、他科診療科などが明記されている場合：例）支持療法、不足薬剤の補充、医療用麻薬の追加・増減、皮膚科や眼科などの診療科を指定して提案　（④と重複せず、④を優先評価）
⑥支持療法の使用指導	テレフォンフォローアップにおいて、副作用に対して、患者の手持ちの支持療法薬を指定して使用を促した事例
⑦対処療法指導・不安軽減	テレフォンフォローアップにおいて、副作用に対して、その不安解消や副作用に対する対処療法の指導を行った事例 （具体的に支持療法薬の使用を促したものは⑥）
⑧ノンアドヒアランス回避（抗がん薬）	テレフォンフォローアップにおいて、抗がん剤のアドヒアランスの低下や服用期間、休薬期間の誤りを発見し、指導した事例
⑨病院薬局相互確認	テレフォンフォローアップ後のトレーシングレポートの内容について、病院と薬局が詳細情報の確認を行った事例 ※両者が確認を取る事で患者に疑問を解決し、経過観察となった事例
⑩特別な対応なく経過観察	テレフォンフォローアップ後のトレーシングレポートの内容が、副作用なし又は G1 程度の軽微な副作用であり、特別な対応なく経過観察した事例
⑪その他	その他（後で振り分けを協議）

129 名の登録患者に対して作成された 428 件のトレーシングレポートには、総計 504 件の介入事例が記録されていた（重複分類可）。テレフォンフォローアップを契機とする緊急入院が 1 件、予定外受診が 4 名 5 件、抗がん薬の休薬が 9 名あった（テレフォンフォローアップに依らない緊急入院 2 名）。テレフォンフォローアップに基づく医師への処方提案が 49 件あり、23 件（47%）が処方に反映されることとなった。テレフォンフォローアップによる予定外受診、抗がん薬の休薬、処方変更の計 38 件は、副作用の重篤化を回避し患者の安全に直接寄与したものと考えられる。

テレフォンフォローアップの内、193 件（45%）は特別な対応なく経過観察であった。テレフォンフォローアップによる介入では、副作用の不安解消や対処療法の指導を行った事例が 153 件（36%）と最も多く、次いで支持療法の使用指導が 66 件（15%）であった。

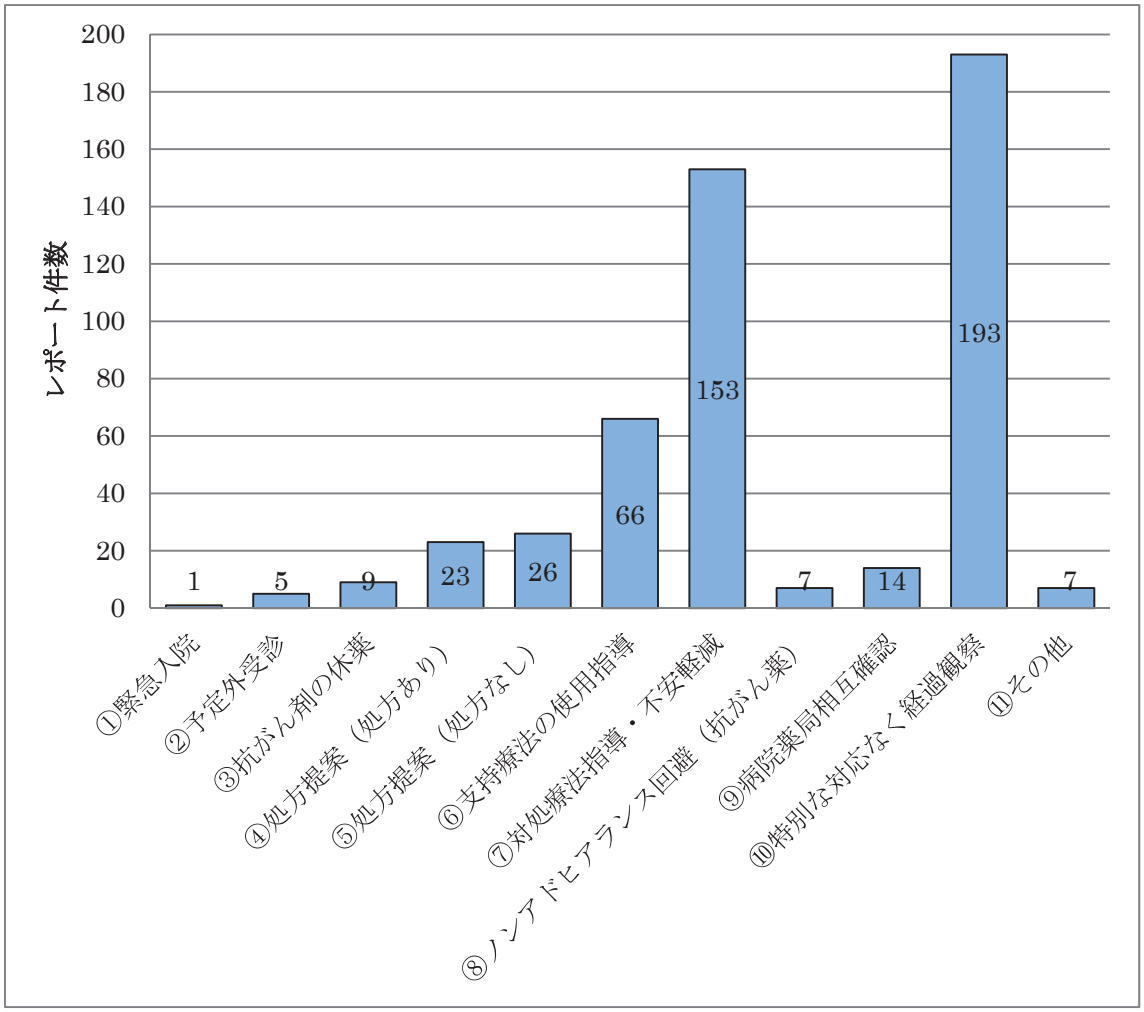

図 1．介入分類別のトレーシングレポート件数（重複分類可）